



噸稅抄譯

682





一 予八百七十二年施行聯合王國ノ港費ヨリ抄
譯 英國ホワイト、ハブン港噸稅率

入港

一 大貝列顛、愛爾蘭、及ヒ「メン」島ヨリ來泊ノ船舶

ハ 壹噸ニ付 四邊尼即ケルソ稅ハ

一 歐洲ノ地方、グオルンシイ、ジオルシイ、アルド

ルネー、サーク、アエロー」ノ諸島及ヒ水泐ヨリ

來泊ノ船舶ハ

壹噸ニ付 八邊尼即ケルソ稅十

一 亞細亞、亞弗利加、若クハ 亞米利加ノ地方ヨリ

來泊ノ船舶但シ「ラプラタ」河ノ地方及ヒ喜望

峰、聖得、ヘレナ、アツセンシヨン島、ケール、ドエ、

ヴオ、ル、下島、カナリ、ト、島、ウ、ス、ト、ル、ン、島、マ、デ

大正十一年四月
侯爵郵寄

啓

一 ラ。テゾールス。ニユーファウランド。グ
リンランド。及ヒ「ダヴィス海峽」ヨリ北
ラ限
ル右地方ヨリ來泊ノ船舶ハ

一 噸ニ付 尙時令即チ廿四錢

一 南亞米利加ノ港ヨリ大平洋ニテハ「ラプラタ

河ノ南方ヲ限リ「亞弗利加」及ヒ「亞細亞」ニテ

喜望峰ノ東方ヲ限ル右地方ヨリ來泊ノ船舶

一 噸ニ付 尙時令六邊尼即チ廿六錢

出港

一 大貝列顛。愛爾蘭。及ヒ「ノ」島地方へ出港スル

船舶ハ 無噸税

一 歐洲ノ地方。グオルンシー。ジオルンシー。マルド

ルネ。サーク。諸島。フエロ。島。及ヒ氷洲へ出

航スル船舶ハ(壓載ノミナレハ半額)

一 噸ニ付 四邊尼 即チ廿八錢

一 坤輿上其他ノ地方へ出航スル船舶ハ(壓載ノ

ミナレハ半額)

一 噸ニ付 四邊尼 即チ廿八錢

錢
首

税ス可シ印チ一月一日ヨリ六月三十日迄
百度七月一日ヨリ十二月三十日迄ニ
都度納税スル事

壹噸ニ付 四安那即チ十二錢

但シ颶風等ニ因テ一旦己ラ得ス入港シ再ヒ
本港ヨリ出航ス可キ船舶ハ港税ヲ納ムルニ
及ハス

記

千八百六十六年出版

佛蘭西國稅關實験録第九卷第四章抄譯

航海ニ係ハル諸税 (ドワードナゲーション)

百六十三十六款 所謂航海税ナルモノハ即チ

フランシガシヨシ(外國人所有ノ船舶ヲ佛蘭西人ノ所

有物トナス)ノ税噸税運輸税ノ三種ナリト虽

氏旅行免状税免状税証書税モ又其船舶ニ係ハ

ル丁少クシテ其積荷ニ係ハル丁多キニ拘ラ

又旅行免状税ノ如キハ實際ニ於テ市中取締上

モノタルニ外ナラザルニ拘ラズ之ヲ航海税

中ニ置ク

此諸税ヲ徵收スルハ海關稅局ニ屬ス

若シ或ル 事以テドツシ禁成ニシキ國財或ハ

歳首

某市十ノ
ハ其收税ハ税関ノ職務タリ此税金ハ大蔵ニ納
マルニ於テ第九款及第十款ニ記載セル
書類ヲ以テ指示シタル改正ラ受クルナキニ
於テハ公租ト一般ニ納メラル市中ニ属スベキ
税金ニ付テハ税関收税掛ハ税関ノ日記表ト同
様総計及ビ收入金取扱及ビ返却金等ヲ特別ノ
表ニ認メ其総金額ヲ毎十日或ハ每一ヶ月ニ
之ガ受納ヲナスベキ邑坊ノヤ納掛ニ渡スベシ
若シ又誤算等ヨリヤ納掛ニ向ヒ金額ノ返却ヲ
要スルキハ税関長ヨリヤ納掛ニ送付スベキ
今書ラ取ルニラナス邑會議所ハ常ニ收入
フアレクニ付ニ拾五「サンチー」ノ割合

ノ謝金ヲ税関收税掛ニ與フベシ特別表ノ官用
活版所ニ於テ之ヲ製シ其入費ハ其邑ヨリ拂フ
且ツ其邑ニ引渡シタル税金ハ入費「ドツク」
入費ヲ去フノ金額ニ充ワル迄ハ之ヲ大蔵省ニ
預ケ大蔵省ヨリ相当ノ利子ヲ拂フ
第六百三十七款「フランシ」此税ハ百噸以下ノ
船舶ニ付テハ一噸ニ付九「サレチー」ヲ拂ヒ百噸ヨ
二百噸迄ノ船舶ハ十八「フランシ」ニ百噸ヨリ三百噸
未滿迄ハ二十四「フランシ」又其以上ハ三百噸以上ノ
モノニ課スヘキ割合ヲ以テ百噸毎ニ六「フランシ」ナ
リ但シ百噸未滿ノ半數ノモノモ此割合ニテ收
税ス

第六百三
噸税曾テハ噸税及ビ噸ノ半

税ノ二稱
テ現今ハ噸税ノ一稱ト成リタル
此税ハ其保護ヲ受クベキ港ニ入船スル一事
ヲ以テ課税スルヲ得ルモノナルガ故一即チ着
港税ナリ而シテ此税ハ國主權ニ向テハ承諾ノ税
ニシテ船舶保護ノ事ニ向テハ使用ノ税ナリ又
國々ニツキ税金ノ額相違アルガ故ニ又本國船
船ノ航海ノ保護税ナリ
又此税ハ船舶ノ不得止シテ入港スルト然ラナ
ルトニ論ナリ只々入港ノ一事ヲ以テ之ヲ徵收
スベシ佛蘭西國ノ港ニ入船スル外國船ハ一噸
ニ付ニ「フランシ」五ナ「サンチ」トラ拂フ
噸税ハ佛蘭西國ノ諸港ニ於テ港ノ保存及
繕ノ為メ噸税ノ半額ニ均シキ税金ヲ拂フベシ

英國及ビ歐洲ニ在ル其藩屬地ヨリ着港スル佛
蘭西國船噸税ハ一「フランシ」ト定メラル但シ「
ハ」算入セス
澳業及ビ歐洲ノ英國藩屬地ニマラサル外國港
ヨリ帰港スル佛蘭西船ハ噸税ヲ拂フナシ
此特權ハ(第一)佛國ノ一港ヨリ其他港ニ沿海ヲ
航行スル船舶(第二)海外ノ佛國藩屬地ヨリ着港
スル船舶ニモ及ボスヲ得
噸税ハ入港ノ日ヨリ二十日間ニ拂フベシ但シ
此日限前ニヤ祭ノ船舶ハ其ノ港前ニ拂フベシ
又一噸ニ充タサル分數ト雖モ同シク算入シテ
收税ス

マツコロツク氏貿易航海辞書 第五百廿三葉抄譯

倫敦港稅 河燈臺統之事

船隻ノ航進ヲシテ快駛ニシテ且危險ナカラシムルノ要
訣ハ實ニ老練ノ引水者ヲ備ヘ或ハ光輝アル燈臺ヲ築造
シ其他人智ノ及フ所ハ務メテ諸般ノ方法ヲ設ケテ航海
ノ便ニ供スルニ在リ然リト雖此等經費ノ為メニ収ム
ル所ノ稅タル必ス其額ノ重ラサルヲ須要ナリトス若シ
之ニ反スル片ハ航海者ハ其航海ノ危險ナルヲモ顧ミス
棧ニ稅額ノ重カラサル海峽ヲ航進セシト欲スルノ弊ナ
キヲ免レス蓋此事タル實ニ貿易キノ理由ナリト雖此
國ノ内外ヲ問ハス往時ヨリ之ヲ確認シテ實際ニ施行セ
シ者アルヲ見ニ按スルニ全歐騷亂ノ末年ヨリ百二十

五年 至ルマニ 船槽燈臺引水者等ノ為メニ賦課スル所
ノ稅タル實ニ非常ノ重額タリシヲ以テ若シ延テ之ヲ他
年ニ及シタランニハ我邦貿易ノ利ヲ妨碍ス。マ蓋疑ヲ
容ルヘカラス之ニ加ルニ當時ニ在テ我港ロハ入進スル
外國船ニ賦課スル所ノ稅ハ内國船ニ課スル所ノ者ニ倍
加シタリキ如斯ハ内國船ノ航海ヲ獎勵センカ為メタル
ニ外ナラスト雖モ外國ニ於テモ亦均シク同一ノ政計ヲ
施ス恰モ復離ノ跡ニ異ナラサルヲ以テ終ニ世人ヲシメ
其結果。却テ當初ノ目的ニ反對スルノ想像ヲ起サシメ
タリ況ニヤ外高ハ其跡ヲ内地ニ絶テ全國ノ貿易ハ安靡
シテ振ハス如斯其レ適應ナル我港ロヲシテ為メニ
ノ貿易場タラシムルノ域ニ至ルヲ得サラシメサリ
於テ然リト雖モ幸ニ特運ノ變換スルニ遭遇シ千八

百二十五年 船槽特例ノ盡期スルニ至テハ船槽稅率ヲ減
却シテ今日輕稅アルニ至ラシメタリ
チヨルゲト」第三世ノ第三十九添令第六十九條及同皇
四十三添令第百二十四條ヲ以テ船槽稅ノ外倫敦港ニ出
入スル船隻ニ所謂港稅即チ噸稅ナル者ヲ課スルノ令ヲ
發シタリシカ此稅タルヤ一方ニ向テハ港長ヲシテ繫船
鏈ヲ備具セシムルノ經費ニ供シ又一方ニ向テハ港口ノ
改修ヲ計ルノ準備金ト為スノミナラス兼テ「アイルランド」
ノ間ニ航行スルニ足ルヘキ溝渠ヲ通ニタルノ費用ヲ償
却スルノ目的ニテアリツレ此溝渠ハ「チヨルゲ」第四世
ノ第十添令第百三十條ヲ以テ一億二千萬磅ノ代價ニテ
之ヲ西印度船槽會社ノ會社ニ賣却シ其修築ノ為メニ公衆
ヨリ贖金ニタル額ハ悉ク之ヲ償了シタリ故ニ今ヤ

港税ノ率 唯々必復ニ賞ヲ償フニ足ルヘキノ度ニ追
減却スル一ノ決議シ終ニ維廉第四世ノ第四第五法令第
三十一條ヲ以テ施行シタリ而シテ其改正噸税ノ率ハ左
ニ掲クル所ノ如シ

第一倫敦港及大不列顛、愛爾蘭ノ他港、英蘇格蘭ノオーク
子イム「セットランド」若クハ西方諸島ノ間ニ於テ沿海貿易
スル船隻ハ該港ニ入進シ或ハ出発スルコトニ毎噸半
邊ニ一即チ税ヲ納ムヘシ

第二丁抹、諾威若クハ「ラプラント」(北海角ノ此方ニ於テ)
ヨリ入進シ若クハ該國へ出發シ或ハ「ホルステイ」(享堡
「アレメシ」若クハ日身曼海ニ孫恩接近スル他ノ日身曼
口ヨリ入進シ或ハ「荷蘭、荷蘭聯邦」ノ他州「ブラバント」
「フランドルス」若クハ「テセラント」ノ他ノ地カヨリ

入進シ若クハ該國へ出發シ或ハ法朗西(「ユサン」内ニ於テ)
「ゲウエルンセイ」「ゲエルセイ」「アルドルニー」「サーク」若クハ「アイ
オフ、マン」ヨリ入進シ若クハ該國へ出發スル船隻ハ
出入或ハ入進ノ度コトニ半邊ニノ税ヲ納ムヘシ
第三「ラプラント」(北海角ノ外ニ於テ)「フィンランド」「魯西
亞」(「ホルネック」海ノ内外ヲ問ハス)「リチニヤ」「コールラント」
波蘭、普魯西、瑞典若クハ「ホルネック」海疆内ノ他國ヨリ入
進シ若クハ該國へ出發スル船隻ハ其出入ノ度コトニ
半邊ニノ税ヲ納ムヘシ
第四法朗西(「ユサン」及「西班牙」ノ間ニ於テ)「葡萄牙」
「西班牙」(地中海ノ外ニ於テ)「アグアス」「マデイラ」若クハ「カ
ナリ」
「島」米合衆國若クハ北亞墨利加洲内英領地方
「ロリダ」等ヨリ入進シ若クハ該國へ出發スル船隻ハ其

出入ノ度、ト一邊、凡ノ四分三税ヲ納ムベシ
 第五、ダリ、インランド、^一「デブラルタル」法朗西、西班牙、地中海
 ノ内ニ於テ、若クハ地中海及「アドリヤチク」海、^一「暹羅」
 接近スル諸國ヨリ入進シ、若クハ該國、^一出發シ、或ハ西
 印度、「ローレヤナ」墨斯哥、南亞墨利加、亞非利加、東印度、
 支那、或ハ大平海、若クハ北緯二十五度ニ、^一「暹羅」接近スル
 諸國ヨリ入進シ、若クハ該國、^一出發スル船隻ハ、其出入
 ノ度、コト、^一「邊尼」ノ四分三税ヲ納ムベシ
 左ニ掲クル所ノ船隻ハ、噸税ヲ納ムルヲ要セス
 一、軍艦及ヒ皇帝陛下並諸親王ノ所有ニ屬スル船隻
 一、倫敦、若クハ大不列顛ノ他港ニ出入スル四十五噸
 滿ノ沿海貿易船
 一、穀物ヲ搭載シテ沿海廻宿スル船隻

一、捕魚船、海老、蠣、船並搭客船
 一、「テムス」河ヲ航行シテ其末流「グレー」ウス、^一「ド」ニ列ル
 船隻
 一、壘、^一「荷」ノミニテ出入スル船隻

